



発行責任者 亀岡市立病院広報委員会

〒621-8585

京都府亀岡市篠町篠野田1-1

TEL 0771-25-7313

FAX 0771-25-7312

http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/

## 病院理念

- 急性期医療を中心とした適切かつ良質な医療を提供します。
- 患者さまの権利を尊重し、理解と納得に基づいた患者さま中心の医療を行います。
- 地域医療機関と連携し、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み地域医療の向上に貢献します。
- 公共性と経済性を考慮し、市民の理解と信頼を得られる透明性のある病院運営を行います。

## CONTENTS

ごあいさつ	1
乳腺外科のご紹介	2・3
電子カルテシステムの稼働1年を振り返って	4
化学療法室が稼働しました	4
平成24年度病院事業会計決算の概要	5
糖尿病教室からのお知らせ	6
トピックス	6
クリスマス会の開催について	
病院職員紹介	6
地域連携医のご紹介	7
鎌田整形外科医院・落合皮フ科クリニック	
編集後記	8
広報誌読者からのご意見等募集案内	8

### ごあいさつ

市民の皆様、新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり今年1年の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。

お陰様で、市立病院は10回目の新年を迎えました。日頃から病院運営につきまして、ご理解とご協力を賜り厚く感謝を申し上げます。

市立病院では、昨年4月に医師の交代があり、中堅で地域医療への意欲にあふれた3名の医師をむかえることができました。また6月からは南丹地域で唯一となる糖尿病専門医が着任し、現在14名の常勤医師が勤務しております。さらに京都府立医科大学から多くの非常勤医師を派遣していただき、14の診療科がございます。各診療科ではそれぞれの科の専門的な診療を行うとともに、亀岡市内の唯一の公立病院として、必ずしも専門分野に固執せず、対処が可能な範囲内であれば広く総合的にいるような病気に対応することにも力を入れてまいりたいと考えております。

しかしながら、当院はベッドの数が100床と、人口9万2千人あまりの市の病院としては小規模な病院です。したがって市立病院だけでは対処することが困難な病気には、公立南丹病院をはじめとする近隣の病院と密に連携をとらせていただき、協力することで地域としての医療の安定と向上に尽力をさせていただきたいと考えております。

今後とも、市民の皆様には、忌憚のないご意見をいただくとともに、市立病院の運営につきましてご理解とご協力をいただきますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



亀岡市立病院 病院長 上田 和茂

# 乳腺外科のご紹介

亀岡市立病院 診療部長 兼 外科主任部長

田中宏樹

当院の乳腺外科の活動についてご紹介させていただきます。

当院では亀岡市の40歳以上の乳癌検診施設となっており、昨年度は亀岡市民検診受診者全体で1823名のうち922名の検診を行いました。毎年受診者数が増加しているのに対して当院での受け入れキャパシティに限界があるために検診全体に占める当院の割合は減ってきていますが、それでも亀岡市の検診全体の半数以上を当院で施行しています。

毎年6月から1月までが個別検診期間であり、当院の他に公立南丹病院、足立病院を選択できます。それらの個別検診の枠が埋まってしまうと残りの方は12月から2月に保健センターで集団検診となります。

当院の検診体制ですが、検診マンモグラフィー精度管理中央委員会の撮影認定技師3名、読影認定医師3名(外科2名、放射線科1名)となっております。ただ撮影及び読影の責任者として前述の認定資格Aの技師1名と医師1名がそれぞれ全例に目を通すため、大幅な検診数増加は難しいのが現状です。また検診の質を下げないように指導者講習会にも毎年参加し、研修に努めております。

検診の質を評価するものさしとしては要精検率と陽性反応的中率があり、前者は<要精密検査となった人>/<受診者>で低い方が良く、後者は<ガン発見数>/<要精検者>で高い方が良いのですが、当院での昨年の成績は要精検率4.7%で陽性反応的中率9.3%と共に全国平均、京都府下平均を上回る良い成績でした。

また検診とは別に症状があったり他院で検査して異常所見があったりした患者様が受診される乳腺外来を月曜日、火曜日、水曜日に設けております。

昨年10月から今年9月までで受診者数は延487名で乳がん発見数は26名となっております。こちらから京都府立医科大学乳腺外科学教室からの支援を受けて増加しつつあり、現在は火曜日の外来と検診を大内佳美先生が受け持っており、優しく親身な外来で好評を得ております。当院では初回診察時にマンモグラフィーと超音波検査を行い、場合によってはその際に局所麻酔下で細胞検査なども施行します。そのためおひとりの患者様にだいたい30分から50分程度の診療時間を要するために乳腺外来についてはすべて予約制にさせていただいております。なるべく来院回数を減らして患者様の負担を減らすためですので、どうぞご理解賜りますようお願い申し上げます。予約については電話で承っております。

治療については、Feasibility testを経て2006年から色素と赤外線カメラを使用したセンチネルリンパ節生検を開始しております。また術前化学療法も行っており、発見時に腫瘍が大きい方でも腫瘍を小さくして整容性の高い温存手術を受けていただけるように配慮しております。また他の病院での治療を希望された患者様には基本的に希望の医療機関に紹介しておりますが、特に京都府下で最も症例数の多い京都府立医科大学附属病院とは病病連携して、治療期間の長い薬物療法は当院

で行い、手術と放射線治療を大学附属病院で行うこともしております。最近では若年症例の発見が増え、手術後の整容性もますます重要視されてきておりますので、乳房再建も積極的にお勧めしており、京都府立医科大学附属病院の乳腺外科及び形成外科への紹介も増えております。

手術以外の乳腺外科の仕事で重要なのが抗癌剤治療です。当院では外科医師は全員「がん治療認定医」の資格を有しており、胃癌、大腸癌、膵癌、乳癌など多くの癌腫に対する化学療法を実施しております。最近の抗癌剤治療は複雑化しております。特に乳癌に対する化学療法は日進月歩で変化していくため、最新の情報を入手する不断の努力と人為的ミスをなくすシステムが要求されます。当院では化学療法委員会を立ち上げて同委員会で電子カルテ内のレジメン管理をしております。また昨年からは外来化学療法室を開設して、「がん化学療法看護認定看護師」の山田看護師が常駐して、そこで安全で快適に化学療法が受けられるように体制を整えております。

一部の大規模病院では包括医療制度のため、入院では抗癌剤治療が難しく、通院する体力が無ければ早期に化学療法を打ち切れ、緩和ケアは別の病院でするように言われるケースがあるようです。逆にホスピスなどでは抗癌剤治療などは行えず、積極的治療を続けるかあきらめるか悩む方も多くおられます。特に乳癌は再発後の経過が長い特徴があり、当院では患者様の状態や希望に合わせて入院でも外来でも柔軟に化学療法を施行しており、また麻酔科橋本医師を中心とする緩和ケアも抗癌剤治療と並行して行っているため、患者様の体力や希望に応じた抗癌剤治療ができ、かつスムーズに緩和ケアに移行していただけます。手術から再発治療、終末期医療まで全て当院で行い、最後まで責任を持ってケアすることをモットーにして治療を行っております。



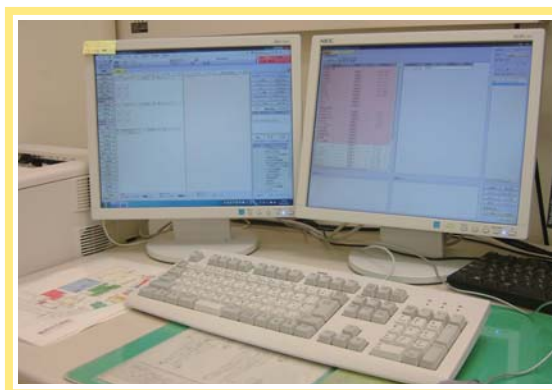
## 電子カルテシステムの稼働1年を振り返って!!

昨年の12月で電子カルテシステムが稼働して1年が過ぎました。稼働前より色々な検討委員会を立ち上げ、従来行ってきた仕事を分析し、そして将来へと繋げるシステム運用を考えるため“医師や看護師・診療技術部の技師・事務職員”など多くの職員が運用方法の見直しを行い、「システムに求める操作性や機能性」、「医療の質やサービスの向上」、「経営の効率化やコストパフォーマンス」などを検討してきました。

電子カルテシステムと一言と言っても、その中身は20社以上の部門専用システムがあり、それらのシステムから得られる検査結果や診療記録などのデータを連携させ、診察時に画面にリアルタイムに表示しなければならない複雑なシステムです。

準備段階で多くの部門システムメーカーから、当院に合った機能を持つシステムを選択していくのは大変でした。あれこれ迷いながら各社の仕様書を見比べ、実際にデモンストレーション機にも触れて、各システムを最終的に決めるのに12ヶ月を要し、メーカーが決まった後は、システムエンジニアと打ち合わせが始まりました。これがまた”多岐に亘る膨大な内容を詳細に検討して行く“という最初はゴールが見えない状況で作業を繰り返しました。多くの職員が多くの時間を費やして、システムを決めてから更に8ヶ月の月日が経ちましたが、結果としては、運用開始予定日より約2ヶ月も早く稼働することが出来ました。

稼働直前は、ほんとに動くの？大丈夫？など不安の声もありましたが、職員が見守る中、何の支障もなくスムーズに稼働することができました。実際に使ってみると、当初は色々使い勝手の悪い所も見つかり修正を繰り返す状態で、日々の管理が大変だった事も思い返されます。最近では、職員もシステムの操作に慣れ、更なるサービスの向上を目指して電子カルテの機能をフル活用出来る様に頑張っています。システムというのは、一種の生き物で、使う側次第で良くも悪くもなります。当院では、導入したシステムを大事に育て上げるつもりで今も職員一同励んでおります。応援して下さいました市民の皆様や関係者の方々には大変お世話になり感謝しております。今後とも温かく見守って下さいますように宜しくお願いいたします。



## 化学療法室が稼働しました

化学療法室は入院せずにより安楽に、安全に抗がん剤治療を受けていただくための専用の部屋です。外来で行なうことで、患者様は仕事や、自宅での生活を続けながら治療を受けることができ、経済面での負担も少なくすることができます。当院の化学療法室にはベッドを4床、リクライニングシートを4脚配置しており、テレビを見ながら過ごしていただくこともできます。また、化学療法室専任の看護師が治療についての相談に応じたり、薬剤師がお薬の説明等を行うなど、患者様に安心して治療を受けていただけるよう努めています。

当院ではこの化学療法室の稼働に併せて「外来化学療法加算」の診療報酬施設基準を取得いたしました。これは、化学療法室の環境や運用についての条件を満たした場合に認められる保険点数ですが、化学療法を受ける患者様の窓口での負担額が、3割負担の方で化学療法1回につき1,800円程度(1割負担の方は600円程度)増えることとなります。今後もより安全に、より正確に治療を行なえるよう努力してまいりますのでご理解いただきますようお願いいたします。

また、化学療法室へのご要望、ご質問などがございましたら、お気軽に化学療法室の職員にお声かけください。



## 平成24年度市立病院の決算概要について

亀岡市立病院は、平成16年度に開院して平成24年度で9年が経過することになりました。その間、全国的な医師不足や診療報酬改定など医療を取り巻く環境が厳しい状況でありましたが、市民の命と健康を守るための安全安心の拠点施設として、良質な医療を継続して提供していくことを使命として、病院理念の達成と市民から信頼される病院づくりに努めてきました。

平成24年度は、院内IT化の一環として電子カルテシステムを新たに導入し、当該システムに連動する医療機器の整備と併せて、情報の共有化や患者サービス・医療レベルの向上を図るとともに、病院経営における分析等に活用しています。

### 1. 患者数の状況

入院患者数は、年間では23年度に比べ1,714人減少して延べ26,852人となり、1日平均では23年度に比べ4.4人減少して73.6人となりました。病床利用率は、23年度に比べ4.4ポイント減少して73.6%でした。

また、外来患者数は、年間では23年度に比べ977人減少して延べ71,756人となり、一日平均では23年度に比べ5.2人減少して延べ292.9人でした。

### 2. 収益的収入及び支出の状況

収益的収入は、23年度に比べ1億5,569万円減少して21億3,864万円となりました。内訳は、入院収益が9億8,593万円、外来収益が5億5,625万円、一般会計繰入金が5億2,215万円、室料差額や予防接種などの収入が7,431万円となっています。一般会計繰入金は、国の制度などにより病院事業の経費のうち政策医療である救急救命医療や高度医療、企業債償還金など国や市の一般会計が負担すべきと決められている経費に相当する収入です。

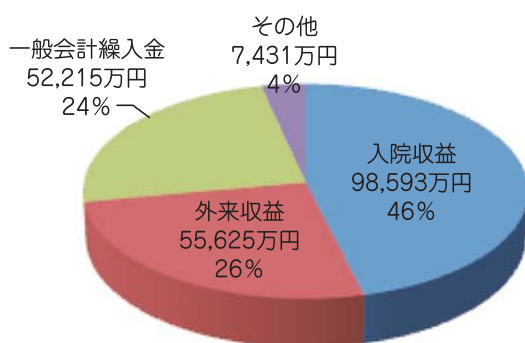
一方、収益的支出は、23年度に比べ7,561万円減少して21億7,122万円となりました。内訳は、常勤や非常勤職員の給与費が11億9,677万円、薬品や診療材料などの材料費が3億3,583万円、施設の管理運営などの経費が3億1,398万円、施設や医療機器などの減価償却費が2億71万円、企業債の支払利息が6,186万円、その他が6,207万円となっています。

年間の経営成績をあらわす収益的収支差引では、平成23年度に4,751万円の経常利益(黒字)を計上しましたが、平成24年度は3,258万円の赤字を計上することとなりました。その結果、前年度からの繰越欠損金4億2,041万円を加えた当年度未処理欠損金は4億5,299万円となっています。

今後とも、公共性と経済性を考慮して透明性のある病院運営に努めてまいりますので、市民の方々をはじめ関係各位の皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

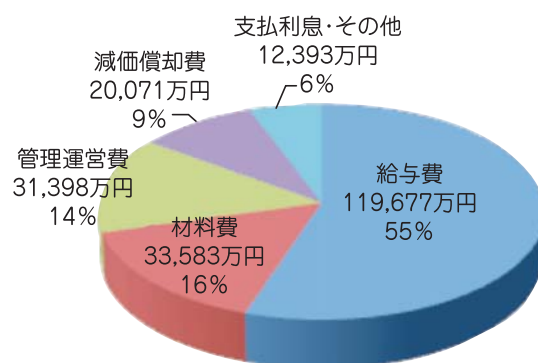
※平成24年度病院事業会計決算の概要については、当院のホームページに掲載しておりますので、ご参照ください。

### (収益の構成)



計213,864万円

### (費用の構成)



計217,122万円

## 糖尿病教室からのお知らせ



年初に当たり、一年の目標に「糖尿病の治療に取り組む」ことを掲げられた人もいらっしゃるのではないのでしょうか。

糖尿病は生涯にわたり長く付き合っていかなければならない病気です。糖尿病と向き合う中で疑問が生じた時や壁にぶつかった時、糖尿病教室に参加していただくことで解決への糸口が見つかるかも知れません。また、改めて糖尿病のことを知りたいなど糖尿病に興味をもたれた人も、是非一度教室を覗いてみてください。

今後の教室開催スケジュールです。

開催日	内容	担当
1月21日(火)	フットケア	谷村(看護師)
2月18日(火)	糖尿病と血管病	松尾(循環器内科医師)
3月18日(火)	糖尿病と食事	森(管理栄養士)
4月22日(火)	糖尿病について	野口(糖尿病内科医師)
5月20日(火)	糖尿病と検査①	原(臨床検査技師)



糖尿病教室はどなたでも参加いただけます。日程・内容の変更は院内に掲示しますのでご確認ください。皆様のご参加をお待ちいたしております。糖尿病委員会

## トピックス



### 第10回クリスマス会を開催しました



昨年の12月20日(金)に当院外来フロアにてクリスマス会を開催しました。普段お越しいただいている患者様と、いつもの診療の時には出来ないような交流を行い、信頼関係を深めたいとの思いから始まったクリスマス会も、平成16年の開院時から毎年開催され、今回で10回目を数えることとなりました。今年は、ボランティアの方によるフルーツ&ピアノ演奏をはじめ、看護師等による体操、マラカス演奏&合唱、ハンドベル演奏、各技師によるクイズ大会、医師によって結成された“ドクターズ”によるコーラス、プレゼント抽選会など盛りだくさんの内容で患者様と楽しいひと時を過ごしました。次回開催の折には、ぜひ、皆さまのご参加をお待ちしております。



## 病院職員紹介



医事課 医事係  
阿久根 沙和

亀岡市立病院の一員として、昨年の4月からこちらの職場で働くことができ、うれしく思っています。

私は、朝の連続ドラマを毎日欠かさず見ています。様々なトラブルに、逃げることなく立ち向かい、明るく乗り越えていく主人公の姿に毎日元気をもらっています。先日、舞台となっている商店街に行ってきました。ドラマの舞台にふれることができ感動しました。

このドラマが教えてくれているのは、食べることは生きるということです。食べることに感謝して、私も心を込めて「ごちそうさん」を言いたいと思います。

仕事は、まだまだ未熟で職場のみな

らにご迷惑をおかけし落ち込むこともありますが、めげずにドラマの主人公のように、前を向いて少しずつでも成長できるように一生懸命頑張りたいと思います。



当院では、地域の医療機関と連携して、地域に求められる救急医療・高度医療に取り組み、地域医療の向上に貢献することを病院の基本理念として、患者さま中心の医療を展開しています。そこで、本院と関係の深い、地域の連携医療機関を順次紹介させていただきます。

## 鎌田整形外科医院

院長：鎌田 雄一郎

住所：亀岡市突抜町44-1

TEL：22-5068

標榜科目：整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科

午前9:00～12:00、午後4:30～7:00

診療時間：(火曜14:00～16:00リウマチ予約診療)

土曜日午後および木・日曜日、祝日休診

## 落合皮フ科クリニック

院長：落合 宏司

住所：亀岡市篠町馬堀駅前2-3-1

メディアス亀岡5番街1F

TEL：55-9536

標榜科目：皮膚科

診療時間：午前9:00～12:00、午後3:30～6:00

火・土曜日の午後、木・日曜日・祝日休診

### 院長より一言



医大卒業後34年。公立南丹病院に赴任し、口丹波の医療に携わってから20年以上。亀岡で開業してからも早いもので7年が経っています。開業後に前の道路が城下町にふさわしく一部カラー舗装され、向いの親水公園も整備されました。4月になると亀岡保育園の新学期の泣き声が当院にも響いてきます。隣の田んぼに水が張られると、今度は蛙の大合唱です。医院の通用口には燕が巣を作り、毎年雛が孵っていきます。これらは、亀岡で開業して良かったな、と感じる時間です。私は整形外科医なので毎日手術の病院の日々から、外来のみの診療所に変わって物足りないなど思う事も最初はありました。しかし、外来の難しさも改めて徐々に感じています。今まで多くの手術をさせていただいた経験をふまえて、患者さんに最も良い治療法を、多くの保存療法、手術療法の中から比較・選択しアドバイスできるようにしたいと考えています。関節リウマチ、骨粗鬆症、スポーツ障害など整形外科の守備範囲は広く一人では対応できない時もあります。当院では脊椎専門医、膝専門医の先生にも外来に来ていただき、問口はなるべく広く、専門性は高くするよう努めています。また、医療が高度になれば、病診連携はかかせません。各種検査や入院・手術、救急対応と亀岡市立病院には大変お世話になっています。これからもご無理をお願いする事もあるかと思いますが、宜しくお願いいたします。

### 院長より一言



亀岡市立病院のスタッフの皆様には、平素より大変お世話になっております。ありがとうございます。

平成22年10月に、篠町馬堀駅前が開業し早3年が経過しました。私は大阪医科大学皮膚科に入局した後、平成15年4月より医療法人睦会ムツミ病院に勤務しておりました。そのころから考えると、10年ほど亀岡で働かせていただいていることとなります。

当院では、日ごろから少しでも地域の皆様に納得していただける医療を提供したいと思っております。ただ、どうしても当院で対応困難な患者様については亀岡市立病院等に紹介させていただいております。いつも無理を聞いていただき、また適切に対応していただき、感謝しております。今後も何かとお世話になることがあるかと存じますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

大学を離れ4年ほど経過し感じることは、どうしても新しい情報の入るのが遅くなってしまっているということです。意識的に色々な勉強会や学会などに参加し、新しい知識を吸収することが、地域の皆様に貢献することにつながると考え、がんばっております。

微力ながら今後も地域の皆様に少しでも貢献できるよう、努めてまいりたいと存じます。今後ともよろしくお願いいたします。



## 編集後記

厳しい寒さが続く毎日ですが、皆さまのような新年を迎えられたでしょうか？

私は家族3人で実家の愛媛県西予市で新年を迎えました。お節料理を食べ、電気コタツに入り、当たり前のようにおいてあるミカンに「期待通りの甘み」を感じました。ミカンは接ぎ木で育て始めますが、種から育てると実がなるまでに10年程度かかるそうです。その10年の間にも「施肥」「剪定」「摘蕾(てきらい)」「摘果(てっか)」の作業の繰り返し。その他にも日照時間や雨不足を乗り切り、手間暇かけておいしい「伊予みかん」の出来上がりとなります。

亀岡市立病院もいろいろな取り組みを続け今年開院10周年を迎えます。これからも「期待通りの味」が出せるよう努め、広報誌「桔梗」の中で亀岡市立病院の旬な情報をわかりやすくお伝えしたいと思っています。今後とも宜しくお願い申し上げます。

広報委員会 委員 林 圭子(副看護部長)

### 広報誌読者からのご意見等募集案内

本誌『桔梗』の表紙や挿絵に掲載させて頂く写真やイラストを募集させていただきます。テーマの規定はありません。みなさまより多数のご応募を心よりお待ちしております。採用、不採用に関わらず、写真やイラスト、画像データ等のご返却できませんのであらかじめご了承下さい。詳細につきましては、下記担当者までお問い合わせをお願い申し上げます。

【担当者】亀岡市立病院 病院総務課 谷 (平日、午前10時から午後3時まで)



JR馬堀駅から徒歩約5分/京都縦貫道篠インターから車で約5分/駐車(輪)場有

## 亀岡市立病院

〒621-8585 京都府亀岡市篠町篠野田1-1  
TEL 0771-25-7313 FAX 0771-25-7312  
<http://www.city.kameoka.kyoto.jp/hospital/access/index.html>

「がんばろう日本」～亀岡市は東日本の復興を支援します～